

2020年7月21日



キリスト教センター 通信 Vol.9



激励メッセージリレー

タイトル 『 学ぼう、そして考えよう! 』

キリスト教センター長 藤倉哲哉 先生

メディアが発達しているとはいえ、時代や国や社会が違くと、知らないこと、わからないことがたくさんあります。かつて私は、ある国の地下鉄の車内で「私は夫が戦争で殺された難民で子供に食べさせるものがない」と物乞いをする母親を見かけたことがあります。

別の国では、街のコンビニエンスストアの前で学校にも行かずに裸足でたむろしている子供たちが、店から出てくる人にレジで受け取ったお釣りの小銭をせがんでいました。もちろん戦争や貧困について全く知らないわけではありましたが、初めて目の当たりにした私にはやはり衝撃的な光景でした。

講義で「経世済民」の意味を聞いたでしょうが、経済学を学ぶというのは、金持ちになる方法を学ぶだけではない、国際大学で学ぶというのは、外国語を学ぶだけではない、理学療法を学ぶということは国家資格を手に入れるだけではないのです。単位を取って卒業すること、就職することは目標ではあっても目的ではありません。

この厳しい社会、試練の時代にあっても、経済や観光や語学や理学療法を学ぶのは何のためか、誰のためか、学生のみなさんには今こそ神戸国際大学で学ぶ意味を考える時間をもってほしいと願っています。

キリスト教 一口メモ 「罪と罰(バチ)」

みなさんは、小さい頃から、「悪いことをすると、罰(バチ)があたるよ!」と、言われたことはありませんか?チャプレンは、親によく言われました。この言葉の裏には、神(仏)という、目には見えない方の存在があるという背景があります。悪い心が起こった時、神(仏)は、皆さんの隠れたところをもご存じなのだという、抑止力になっていたのではないのでしょうか。

聖書では「罪」という言葉は、人間が神様の言うことを聞かない、神様より人間の方が、優れていると思いつくところから、来ています。特に、旧約聖書では、蛇の誘惑(エデンの園から人間が追放された場面)、ノアの箱舟(洪水)、バベルの塔などの物語に、よく表れています。神様の存在は偉大ですね。いつの時代でも、人間は神様をどのように思っているのかが問われているように思います。チャプレンは、毎日お祈りをしながら、いつも実感しています。皆さんも、どこか心の片隅に、覚えてみてください。

新型コロナウイルスの被害を覚えるお祈り

どうか、皆さんもお時間があるときにお祈りください

神戸国際大学の学生のための祈り

いつくしみ深い神よ、新型コロナウイルスの感染拡大により、困難な日々、孤独な状況、不安の中にあるすべての神戸国際大学の学生のみなさんのために祈ります。

どうか、彼ら彼女ら一人ひとりの心を支え、お守りください。そして私たちに、あなたの知恵と力が与えられ、今できることを考え、神さまのみ心になつた正しい行動を心がけることができますように。そして、共に心を合わせて、新型コロナウイルスの一日も早い終息を祈り、求め続けることができますようにお導きください。

このお祈りを、主イエスさまのみ名によっておささげいたします。アーメン

病に苦しむ人のための祈り

慈悲の父、慰めのもとである神よ、現在、新型コロナウイルスに感染し、痛みや苦しみ、不安や悲しみの中にある人のために献げる祈りをお聞きください。

どうか病で困難や不安の中にある人を憐れみ、み恵みによってその体と心を強め、病を癒してください。また、医師と看護する者たちを助け導き、その働きを支えてください。

そして、何もできずに不安と悲しみの中で苦しむご家族やご友人、また、私たちの心も神さま、あなたが愛によってお救いください。

主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

離れている大切な人を覚える祈り

愛なる神さま、あなたは、み手を伸べていつも私たちをお守りくださいます。どうか、遠く離れて暮らす家族や友人を様々な困難な状況からお守りください。

そしてこの不安定な世界において、必要な糧が与えられますように。心と体が守られ、健やかに日々を過ごすことができますように、どうかあなたがお支えください。

また、不安の中で医療に従事する人々のために祈ります。どうか一人ひとりの働きが祝福され、感染者の回復を助け、支える力をお与えください。そして彼らが感染から守られ、新型コロナウイルスの終息に向かうことができますように。

この小さなお祈りをイエスさまによってお願いいたします。アーメン

豪雨災害の被災者のための祈り

天地の造り主である主よ、あなたは苦しみ悩みのうちにある人びとを支えてくださいます。どうか今、全国各地での豪雨災害によって苦難のうちにある人びとを顧み、ふたたび立ち上がる力をさずけてください。また、わたしたちもこの人びとの悩み苦しみを祈りのうちに覚え、その痛みを少しでも共に担うことができますように。苦しむ人と共に歩んでくださる、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン

神戸国際大学
キリスト教センターの
HPリンクはこちらまで

